

第10回豊山町中学校施設整備基本構想会議議事録

- 1 開催日時 令和5年10月30日(月) 午後2時00分
- 2 開催場所 豊山町役場3階 会議室3・4
- 3 出席者
名古屋市立大学 特任教授 鈴木 賢一 (会長)
愛知工業大学工学部 教授 鈴木 森晶 (副会長)
愛知教育大学教育学部 教授 風岡 治
愛知学泉大学家政学部 教授 前田 治
社会福祉法人豊山町社会福祉協議会 会長 池山 和徳
豊山町議会 議長 坪井 孝仁
豊山中学校PTA 会長 保科 秀賢

事務局
教育長 北川 昌宏
教育委員会事務局長 安藤 憲司
学校教育課長 菊地 智行
学校教育課学校教育グループ長 山永 五香
学校教育課学校教育グループ主任 安藤 彬

株式会社地域計画建築研究所
チームマネージャー 間瀬 高歩
チーフ 塗師 木伸介
- 4 欠席
中部大学教職課程センター 教授 武者 一弘
豊山中学校 校長 篠田 弘男
- 5 傍聴者 1名
- 6 議題
(1) 学校施設改築のコンセプト(案)について

- (2) 建設候補地の比較検討について
- (3) 地域開放機能の検討について
- (4) 事業手法について

7 会議資料

- 資料1 令和5年度豊山中学校改築基本（整備）計画策定フロー（案）
- 資料2 学校施設改築のコンセプト（案）
- 資料3 建設候補地の比較検討
- 資料4 地域開放機能の検討について
- 資料5 事業手法について

8 議事内容

【（1）学校施設改築のコンセプト（案）について】

-事務局より資料1、2を説明-

委員：案1、2の両方ともに大事だと思う。「生徒や地域に寄り添う豊山中学校」というような両方の要素を取り入れた案にできれば良いのではないか。

委員：「多様な学習活動」「地域に開かれた」と二つに分けることで、今後どのように変わるのか。両方とも大事なので、どちらかにするようなものではないと感じる。前回会議で意見させていただいたが、校訓はコンセプトへの反映やリンクはさせないのか。

事務局：校舎の改築に関するコンセプトなので、ハード面に関するコンセプトに特化したいと考えている。これまでの会議では、子どもたちの学びに加え、防災や生涯学習等、多機能な中学校を目指すという方向で進められてきたと認識している。

会長：校訓はハード面とは分けて考えるという意味かと思う。「多様な学習」と「地域に開かれた」についてはこれまで本会議で議論してきた内容であるため、両方を生かす方向で進めてはどうか。案1だけでは内向きの印象を受ける。

委員：「生徒」と限らず、「人」としても良いと思う。抽象的になりすぎるかもしれないが、教員も含め「人」としてはどうか。

会長：教員の働きやすさの面も含めて「人」としても良いと思う。「つながり、学び合い、共に成長できる 人と地域に寄り添う豊山中学校」としてはいいかがか。

- 委員：資料2の21ページに「人と学びの可能性を伸ばす」という言葉がある。それを活用し「人と学びの可能性を伸ばす豊山中学校」としても良いと思う。
- 委員：「地域に開かれた」というのは文科省の掲げる文言と似通ってしまうため、「人と学びの可能性を伸ばす」の方が、豊山町が目指す姿が明確になり良いと思う。
- 副会長：校舎の完成までに時間がかかるため、コンセプトは迷った時に道標になるものである。ある程度、具体的な文言でも良い。両案はどちらかに寄ってしまうので、21ページの言葉を生かした若しくは「寄り添う」等の文言を活用できると良い。
- 会長：前段からの繋がりを意識すると「可能性を伸ばす」という言葉をそのまま持ってくるのはどうか。地域という言葉をもどのように扱うか。
- 委員：「学び」の中に「地域」との関りも包含できるのではないか。地域とのふれあいも学びである。あえて地域と言う必要はないのではないか。
- 会長：「学習」と「学び」では響きが大きく異なる。「つながり、学び合い、共に成長できる 人と学びの可能性を伸ばす豊山中学校」というのはいかがか。
- 事務局：「学び合い」という言葉が1行目にあるため、言葉が重複するのではないか。
- 委員：「地域に開かれた」という言葉は良いと感じている。「地域」という言葉があると、地域との連携をイメージしやすくなる。「地域」を残しながら「人と地域に寄り添う」としてはいかがか。
- 会長：「人と地域に寄り添う豊山中学校」でいかがか。
- 委員：地域との協働はこれからの学校に大切なことであるため、「地域」という言葉を入れることに異論はない。人としての可能性を伸ばすということは地域とのつながり、人とのつながりが含まれていると考える。地域コミュニティの拠点形成という視点もある。
- 委員：「寄り添う」という言葉も良いが、「可能性を伸ばす」という言葉がとても良いと思う。「人と地域の可能性を伸ばす」としてはどうか。中学校を中心に、豊山町の活性化もイメージすることができる。豊山中学校の校訓の「創造」という部分にリンクして考えることができる。
- 会長：「つながり、学び合い、共に成長できる 人と地域の可能性を伸ばす豊山中学校」でいかがか。
- 委員：（異議無し）

会 長：では、改築コンセプトは「つながり、学び合い、共に成長できる 人と地域の可能性を伸ばす豊山中学校」とする。

【（２） 建設候補地の比較検討について】

-事務局より資料3を説明-

委 員：現豊山中学校敷地は液状化計算対象外というのは安全ということで良いか。

事務局：安全という意味である。

委 員：建物配置に関する図が本会議に出るのは今回が初めてか。

事務局：今回が初めてである。

委 員：運動場が狭いという現状について、意見があったように思う。そのため、具体的にどれ程小さくなるのか数値で示さなければ納得を得られないのではないか。現豊山中学校敷地の場合、テニスコート2面と記載があるが、図内には1面しかない。

事務局：既存の体育館棟の上にテニスコートが1面あるのでそれを加えて2面となる。

委 員：スカイプール敷地の方が仮設校舎も不要でコスト的に安価ではないかと考えていた。

事務局：体育館を新規に建設するため、コストが上昇する要因となっている。

委 員：現豊山中学校敷地のA案の駐車場が使いにくいように感じる。B案の駐車場においては角地をロータリー形状にしてもらう方が良いと思う。今後検討してもらえると良い。

会 長：運動場が狭くなることについて数値で示すことは可能か。

事務局：本日、数値に関する情報は持ち合わせていないが、算出は可能である。A案で言うと北東部分の校舎が曲がっている部分の影響により運動場が狭くなっている。

会 長：体育館の屋上にテニスコートが1面確保されていることについて表記して頂きたい。

委 員：現豊山中学校の北東側には既にクラブハウス棟があるので、運動場の広さはあまり変わらないのではないか。現豊山中学校北側の道はそのままになるのか。スカイプール敷地の液状化を防ぐ方法はあるのか。体育館・武道場の新設によりコストが上昇することだが、社会教育センターのアリーナを利用することでコストを下げられないか。

- 事務局：液状化について、杭を打つことにより建物の破壊は防ぐことができるが、外構は液状化により損傷を受けることが考えられる。また、地中のインフラの損傷を防ぐ対策を行う必要がある。液状化対策については現状の概算コストに含んでいないので追加する。
- 委員：隣接する工場対策にかかるコストは入っているのか。工場で火薬を使用しているとのことだが、問題とならないか。市街化調整区域については候補としてのメリットはないと思うので現豊山中学校敷地とスカイプール敷地の比較になるのではないかと。より具体的なメリットデメリットを検討できると良い。
- 会長：液状化対策についてコストの試算をお願いしたい。社会教育センターのアリーナを利用することについてはいかがか。
- 事務局：利用することも可能性としては考えられるが、生徒の移動負担や、講堂機能は敷地内に必要であることを踏まえ、現時点では不透明な部分も多いため、校舎に併設する形で検討している。
- 副会長：地盤についてどの程度の深さなのか検討頂きたい。地中埋設物の附帯設備に関する対策で終わらない可能性もある。敷地全体を地盤改良することもあり得る。そういったことについて複数案示してもらえると分かりやすい。また、スカイプールの解体費用については見込んでいるのか。現豊山中学校敷地の場合、4階建てとして建築面積を減らすことは考えられないか。プールを同敷地内に建設しない場合、移動に時間がかかり授業運営に支障がでるのではないかと。現豊山中学校敷地に関して、B案に下水道整備に関して「-」との記載があるが、A案と同じではないのか。
- 事務局：スカイプールの解体費については試算しているが、事業としては別と考えているため、コスト比較には含めていない。4階建てについて、現資料は素案として示したものであるため、必要であれば検討に含める。現豊山中学校敷地については両案ともに下水道整備済となるため、訂正する。
- 会長：学校プールの利用に関する懸念はいかがか。
- 事務局：学校のプールのあり方については別途検討している。他市町では民間委託する例もあり、現時点では新たにプールを設けることについては消極的である。
- 会長：財政面、指導の安全面の負担が大きく、他自治体でもプールを学校に設けないところもある。
- 委員：地域に開くことがコンセプトで議論されたが、各案でどのように変わるか。スカイプール敷地や市街化調整区域であれば、図書館や社会教育セン

ターとの複合化も考えられるのではないかと。コストベースで議論が進むと現豊山中学校敷地が良いのでは、となってしまう可能性がある。この会議は理想を考える場と捉えるかどうかによって考え方が変わってくる。

会 長：スカイプール敷地については社会教育センターと近いため、地域との関係等の可能性が大きくなるのではないかと、視点として含めるべきではとのご指摘かと思う。

委 員：コスト面については中学校だけで考えるのではなく、小学校も含めた町全体の施設のコストを見込んで場所を考える必要があるのではないかと。また、生徒数について1学年180人前後を前提に進んでいるが、ここ2年で出生率が120を切っている。将来的な変化も見据え、生徒数や階数について見直しを含めた検討が必要ではないかと。

会 長：町全体での検討となると本会議の判断能力を超える。事務局で検討頂きたい。

事務局：委員の指摘のように、公共施設全体を考えるという視点が必要である。公共施設総合管理計画を踏まえながら、理想的な中学校のあり方を検討していきたい。社会教育センターとの連携も含め、地域との連携、複合的で多機能な中学校を考えていきたい。1人1台端末の使用や体格の変化を考慮して、教室の広さについて考える必要がある。

会 長：町全体の公共施設の配置から見た評価について、文言だけでも良いので、比較に入れて頂きたい。生徒数については、新しい学校ができると生徒が集まってくるということが他自治体で発生している。必ずしも減少することではないことを頭に入れておく必要がある。

委 員：配置イメージについては、教室等中身のことは決まっていないという理解で良いか。

事務局：必要面積が11,000㎡程度となるので、その外枠を入れた配置イメージである。昨年公表した「目指すべき中学校のあり方」の中で各室について考え方を記載しているのでその内容を踏まえながら今後検討を進めていく予定である。

会 長：必要面積を入れたのみであることについて記載して頂きたい。次回に向けて本日頂いた意見を反映し、精度を高めたものにして頂きたい。

【（３）地域開放機能の検討について】

-事務局より資料４を説明-

委員：豊山町ではウインドオーケストラが立ち上げられた。音楽室が地域開放の想定に含まれていないが、現在はどこで練習しているのか。練習場所等に不足はないか。

事務局：現在は社会教育センターで活動している。音楽室は中学校の部活動での利用もある。

委員：現在のウインドオーケストラは視聴覚室を利用しているのではないか。現状が十分とは言えないように感じる。整備してもよいのではないか。

事務局：ジュニアオーケストラも組成されており、スポーツ以外の文化芸術も盛り上がっているので施設は充実させていきたいと考えている。

委員：社会教育センターの有効活用ができると良い。スカイプール敷地に中学校を整備した場合、駐車場については懸案事項である。

委員：資料内の地域開放機能について、大人の利用が前提になっているように感じる。人と地域の可能性という点では、学校の学習スタイルの変化を想定し、子どもたちと地域の人が交流する、一緒に何かをやる、ということも考えられる。示された事例について、どの観点で優位性があるのかについて検討頂きたい。アンケートによるとセキュリティを分けてほしいとの意見が多いとのことだが、それは「一緒にやりたくない、自分たちは自分でやる」ということなのか。アンケートを詳しく分析しないとわからない。部活動の地域移行が世の中では話題である。土日に地域の人が当たり前のように学校に入ってきて、子どもと一緒に活動することも考えられる。社会的要請と学習指導要領による要請面も含め、地域の人と子ども達が学校施設内で活動することも含め、施設のあり方を検討できると良い。

委員：候補地比較で、地域との交流という視点も加えて頂きたい。現豊山中学校敷地は狭いため、音楽室や体育館の利用に留まり、地域との交流スペースを設けることは難しいのではないか。

会長：アンケートにおいて、セキュリティに関する回答が多いことについては不審者対策をきちんとして欲しいということではないか。中学生と地域の方の交流ができると、新しい学校の姿が見えてくるのではないかと思う。現在の案をベースに、大人目線になっているのではという指摘を含め、子どもと地域の方の交流、ウインドオーケストラに関することも含め検討頂きたい。

【（４） 事業手法について】

-事務局より資料5を説明-

会 長：工事期間が29か月とのことであるが、現地建替えの場合はもう少し長くなるのか。

事務局：現地建替えの場合であっても仮設校舎の建設や解体工事を設計期間とオーバーラップさせて行うことも考えられる。

会 長：この期間内で納まるということか。

事務局：納まる見込みである。

委 員：方式によっては入札不調になることも考えられる。その場合は工期が大きく変わるのではないか。各方式の具体的なコストの差が分かりづらい。

会 長：一般的には教育施設は収益事業を実施しづらいため、PFI方式は難しい。コストを抑えられる場合もあるが、現時点でコストそのものの比較は難しいのではないか。

委 員：現資料では町の負担等が分かりづらく、非常に判断し難い。

委 員：「デザインの自由度が低い」や「リニューアル改修が困難」との記載があるが、そういったことが起こるのであれば良くないように感じる。そのためPFI方式、リース方式については採用を考え難い。

事務局：PFI方式の場合は、資金調達や学校の維持管理を民間事業者にも担ってもらうことが考えられるため、従来方式に比べて全体でのコスト圧縮効果を得ることが可能ではないかと考えている。DB方式については設計施工を一括で発注することで、諸経費等が削減されることが期待できる。従来方式は設計と施工を別々で発注し、契約が別々となる。DB方式では設計期間短縮やコスト削減が期待できるが、発注のための要求水準書等の準備に時間がかかる。

委 員：子ども達や利用者からは、どの事業方式の評判が良いのか。

事務局：PFI方式についてはリニューアル改修が難しくなるので良くないと考えられる。リース方式については建物がユニット型になるのでデザイン性が良くない。そういった面からPFI方式やリース方式は本事業には適さないと考える。利用者の使い勝手の面ではDB方式では要求水準書づくりが重要となる。従来方式においても設計条件が大変重要である。

会 長：利点については地域の方や子どもの意見の聴取をどのようにするかによっても変わる。従来方式であれば設計段階でワークショップ等を行うことができるが、DB方式は設計前に契約を結んでしまうため、選定後に変更をし難い。

上記のとおり第10回豊山町中学校施設整備基本構想会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席者1人が署名する。

令和5年12月20日

会 長 鈴 木 賢 一

署名人 保 科 秀 賢